

「シリア難民の悲劇」

2015年09月07日

三歳の男の子がトルコの海岸に死体となって打ち上げられている写真が世界に発信され、大きな衝撃を与えている。シリアから来た家族がトルコからギリシアにボートで向かう途中、転覆、死亡し、海岸に流れついた。警察官が遺体を抱いて運ぶ写真も放映されたが、無残、残酷、この上ない。彼の名はアイラン・クルディ君と言い、5歳の兄も亡くなった。ロイター電は、同乗していた12人が死亡し、7人が救助されたと伝えている。

シリアは強権的なアサド政権下にある。反政府運動が起こり、反政府運動も分裂し、混迷を深めている中で、IS（イスラム国）が台頭し、内紛は収拾がつかない状態になっている。国民は生活できなくなり、国外に400万人が難民となって流出した。今年になって、ギリシアに向かった難民だけでも36万人にのぼるといふ。アフガニスタンからも来ているし、北アフリカからも押し寄せている。生きることを求め、ヨーロッパに大挙して向かっている彼らの苦悩は計り知れない。密航業者に数十万円を払うそうで、辿り着いても、安定した生活が約束されている訳ではない。ヨーロッパの駅で留め置かれている難民の姿は痛々しい。途中、2,800人が海で死亡し、オーストリアのウィーンの道路に停車していた冷蔵車の中で71人の死亡が確認された。窒息死で、甚だしく腐敗していたという。死亡人数は数字で一語で著されるが、一人ひとりの人生があり、家族、友人がいる訳で、悲しみは限りない。死亡人数も、報道によってまちまちで、もっと多いことに相違ない。

クルディ君の写真は難民受け入れに消極的なヨーロッパ各国で非難の声を呼び起こしている。ドイツは、ナチズムの罪責感から人権尊重の国となり、2万人以上を受け入れている。メルケル首相は、難民をヨーロッパ連合（EU）内で公平に割り当て、EUの「移動の自由」を保障しようと訴えている。しかし、ドイツ国内でも、職を失うと反対する人々は難民収容所に放火したりしている。イギリス、フランスは3千人強を受け入れている。イギリスのキャメロン首相は今後、数千人の受け入れを表明したが、EUは経済的に行き詰まっている国々が多く、割り当制に反対し、難民流入を防ぐため、国境管理を強化することで一致したと伝えられている。あまりに多い難民を全て受け入れることは実質的に困難であろう。先が見えず、難民たちの苦悩ばかりが取り残される。

この問題は、元を質せば、ヨーロッパがイスラム国家を勝手に直線で区切ったことから起こっている。そして、湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争が影を落としている。欧米の政策のツケが自らに降りかかっている。EUは危機的な状態を迎えていると言える。

一枚の写真が世界を動かす例はあろう。ロバート・キャバの「崩れ落ちる兵士」の写真は他の人が撮ったのではないかと推論されているが、あの写真の世界への影響力は大きなものがあつた。飢え死にしそうな子どもに、ついでとコンドルが忍び寄る写真は衝撃的だった。私はベトナム戦争時、硝煙が立ちのぼる中、泣き叫びながら逃げまどう裸の少女の写真を忘れることができない。クルディ君の写真も衝撃を与えるだけでなく、解決に向かうきっかけになるように動いてほしいと願っている。

教会員で「パウロに学ぶギリシア、トルコの旅」をした時、パウロがギリシアに旅立ったトルコ西岸のトロアスに行きたいと旅行会社に頼み、案内してもらった。訪ねる人がいない田舎道をくねくねとバスで走った。そして、この地から、パウロはヨーロッパ伝道に向かったのだと感激したが、今、エーゲ海は苦難と悲しみの海になっている。命を愛おしむ人間への立ち返りは期待できないのであろうか。ちなみに、日本は、難民申請をしたシリア人60名の内、3名を受け入れただけで。